

普及活動情勢報告（令和４年１月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

今後、５年、１０年先の農地の担い手は？

～大川村 人・農地プランの実質化座談会～



グループワークをサポートする普及指導員
[現状の農地地図を元に今後の担い手や農地管理を検討]

１月１８日、大川村山村開発センターで大川村の人・農地プラン座談会が開催され、村内に農地を所有または管理する住民１１名を含む関係者１８名が参加しました。

会では「人・農地プランとは」「地域農業の将来に関するアンケート結果」について村が説明した後、担い手の有無を色分けした農地地図を用いて５地区に分かれてグループワークを行いました。

現状の課題や今後の担い手確保等について話し合い、住民からは鳥獣害対策、基盤整備、ハウス整備が必要との意見が出されました。

普及所はグループワークでの意見出しを支援するとともに各地区の課題を情報収集しました。

今後、普及所は地域の実状に応じた人・農地プランの目標地図策定と実践を支援していきます。

整枝方法を工夫しよう ～土佐甘とう部会反省会～



次作での整枝方法について生産者に説明

１２月２３日、ＪＡ高知県れいほく園芸部土佐甘とう部会は反省会を開催し、部会員７名が参加しました。

会では、ＪＡから今年度の出荷販売実績を説明し、普及所からは栽培終了時の病害対策と農作業安全、そして今年度に推進した整枝方法での収量・品質の調査結果を説明しました。

説明のあと、今作のふり返りと次作の個別指導の参考とするため、栽培管理の状況についてアンケートを実施しました。生産者から「管理が遅れて枝が繁茂したので次作では早めに整枝したい」「作業性をよくしたい」など、整枝方法を改善したいとの声がありました。

普及所は今作の状況をふまえ、講習会や個別巡回を通じ栽培技術の向上を支援していきます。

花き販売額の目標達成に向けて ～花卉部会初会～



出荷計画を協議する生産者

１月１３日にＪＡ高知県れいほく支所でＪＡ高知県れいほく花卉部会は初会を開催し、生産者７名、土佐町及び本山町職員各２名、ＪＡ職員３名が出席しました。会では、令和３年の販売実績や令和４年の出荷計画について協議しました。

普及所からは定期的実施していた土壌分析の結果の報告と、緑肥などを活用した土づくりを説明しました。

生産者からは「土壌分析結果を参考にしながら施肥することで土壌環境が改善されている、これからも継続していきたい」と更なる品質向上へ前向きな意見が聞かれました。

今後も普及所は、ＪＡと協力しながら目標達成に向けて総合的な土づくりを推進していきます。

地域農業支援の輪を消費者に広げよう！

～本山町農業公社がスポーツイベントで活動紹介～



生産者の所得向上と
棚田保全に寄与している
ブランド米生産を説明する
公社職員

本山町農業公社は12月26日、ブランド米生産の取り組みを消費者に広報しようと、スポーツ団体の普及・強化スクールに協賛参加しました。催しは普及所が企画を提案したもので、全国から参加した約130名に、本山町農業公社からブランド米や米加工品を試供し、また、本山町の概要と、ブランド米を生産振興して棚田保全に寄与している活動を紹介しました。コロナ禍で活動が制限される中、貴重な消費宣伝の機会となりました。

今後も普及所は、ブランド米の発展につながる活動を支援していきます。